

2021年7月19日

報道関係各位

株式会社クボタ
inaho 株式会社
株式会社オプティム
株式会社ルートレック・ネットワークス
株式会社レグミン
株式会社関東甲信クボタ

ハウス栽培のスマート化実証実験を開始

株式会社クボタ、inaho 株式会社、株式会社オプティム、株式会社ルートレック・ネットワークス、株式会社レグミン、株式会社関東甲信クボタの6社は、ハウス栽培のスマート化に向けた実証実験を開始しました。

参画企業各社が保有するロボットやAI等を活用した自動化ソリューションを持ち寄ることで、灌水（水やり）、施肥、防除（病害虫の予防・駆除）、収穫といった各栽培工程で収集するデータを相互利活用できる実証環境を構築し、新たなソリューションの開発を目指します。

記



1. 背景と概要

- 施設園芸は、温度や二酸化炭素濃度等の栽培環境を制御することにより、収穫量の増加や農作物の品質安定化が可能であり、なかでもコスト的に参入がしやすいビニールハウス栽培は広く一般に普及しています。
- ビニールハウスでのアスパラガス栽培の様に、数か月にわたって収穫期が続く作物の栽培においては、生育状況に応じてきめ細かい灌水や施肥、防除等の管理作業や、収穫適期を迎えた対象のみを選別した収穫が必要となるため、農家の経験と人手による作業に大きく依存しています。このため、軽労化や栽培の最適化が強く求められており、参画企業各社はロボットやAI等を活用した自動化ソリューションの開発に取り組んでいます。
- 本実証実験では、参画企業各社の自動化ソリューションを導入することにより各栽培工程を軽労化するとともに、各自動化ソリューションが収集する土壌水分量等の栽培環境や作業データを相互に利活用することにより、栽培全体の最適化に繋がる新たなソリューションの開発を目指します。

- この取り組みを通じて参画企業各社は、軽労化と栽培の最適化が可能な次世代のハウス栽培モデルを確立し、他の作物へ展開していくことで、ハウス栽培のスマート化を実現して参ります。

2. 実証実験の概要

開始時期	2021年7月
内容	・ロボットやAI等の技術を活用したアスパラガス栽培作業の自動化・効率化 ・各ソリューションが収集するデータを相互利活用することによる新たなソリューションの創出
場所	Kubota Incubation Farm [※] ※クボタ イノベーションセンターによる実証実験専用ほ場

3. 参画企業に関する情報

企業名	所在地	代表者	主な役割
inaho 株式会社 (https://inaho.co/)	神奈川県鎌倉市	菱木豊 大山宗哉	収穫作業の自動化・効率化
株式会社オプティム (https://www.optim.co.jp/)	東京都港区	菅谷俊二	栽培している作物のモニタリング実施 並びにデータの解析や生育状態推定 AI モデルの構築
株式会社ルートレック・ネットワークス (https://www.routrek.co.jp/)	川崎市高津区	佐々木伸一	灌水・施肥作業の自動化・効率化、肥料の使用量低減
株式会社レグミン (https://legmin.co.jp/)	埼玉県深谷市	成勢卓裕 野毛慶弘	防除作業の自動化・効率化、農薬の使用量低減
株式会社関東甲信クボタ (http://www.kantokoshin-kubota.co.jp/)	さいたま市桜区	大和経宜	栽培管理全般
株式会社クボタ (https://www.kubota.co.jp/)	大阪市浪速区	北尾裕一	データの相互利活用環境の構築

4. 報道関係のお問い合わせ先

- inaho 株式会社 TEL.0467-67-0561
- 株式会社オプティム TEL.050-1743-2263
- 株式会社ルートレック・ネットワークス TEL.044-819-4711
- 株式会社レグミン TEL.048-501-5910
- 株式会社関東甲信クボタ TEL.048-767-3521
- 株式会社クボタ 秘書広報部 広報課 TEL.06-6648-2389 、 東京広報課 TEL.03-3245-3052

以上